

## 石灰岩地総合調査が始まりました！

須田 大樹

埼玉県教育委員会では、今年度から、従来知られていない文化遺産を新たに掘り起し、その保存と活用を図ることを目的に、歴史遺産・自然遺産・無形民俗文化財の学術調査を行う「文化遺産活用調査事業」をスタートしました。

当館はそのうち自然遺産の調査を担当し、第一弾として平成 28 年度～平成 30 年度の 3 か年で、「石灰岩地総合調査」を実施します。

### 石灰岩地とは

埼玉県には、浅い海で堆積したサンゴやフズリナなど生物由来の石灰質からなる石灰岩体が点々と分布しています。

これらはセメント産業を中心とした基盤産業を支えているだけでなく、地下水によって溶食され鍾乳洞が形成されたり、特殊な環境に特徴的な植物相がみられたり、多様な陸産貝類が生息したりするなど、学術的にも重要な場所です。

中には、貴重な自然遺産として国や県の天然記念物に指定されている場所もあります。

### 地質分野

地質分野では、NPO 法人日本洞穴探検協会の御協力をいただき、石灰岩地に成立する鍾乳洞の現状を把握することを主目的としています。

今年度は、石舟沢鍾乳洞（秩父市中津川）と高岩洞（秩父市大滝）の入洞調査を 7 月に実施しました。



調査風景

### 生物分野

生物分野では、現地調査・文献調査等により、県内の石灰岩地の特徴的な生物相を明らかにすることを目的としています。

今年度は、二子山（小鹿野町）をはじめ各地の代表的な石灰岩地で季節ごとに現地調査を実施し、植物相の記録を進めています。



調査風景（二子山）



ブコウマメザクラ  
(県絶滅危惧ⅠA類、国ⅠB類)



フジカワゴケ（地衣類）  
(県Ⅰ類、国Ⅰ類)

以上、調査の概要と今年度の進捗状況について簡単に御紹介しました。調査の成果は、報告書（平成 30 年度刊行予定）、自然の博物館研究報告、研究発表会、また特別展・企画展といった様々な形で、皆様にお伝えしてまいります。

こういった基礎的な調査が、平成 26 年に奥秩父の鍾乳洞から発見され話題になった大型クマの全身骨格化石や、表紙写真（解説 p. 8）のように、埼玉県の自然に関する新たな知見に繋がることもあります。ぜひ御期待ください。

（すだ だいき・学芸員）